

二十歳の誓い

私は、嵐山で育ち、小さなころから人力車のお兄さんに憧れて、今人力車のアルバイトをして、観光案内をしています。地元愛が人一倍強く、嵐山のことなら何でも知っていると思っていました。

ところがいざ、人力車で観光スポットに案内をすると、観光地の歴史や背景など知らないことだらけ。英語も大学受験で必死に勉強したのに、言いたいことが全く通じないのです。野球部で体力には自信があったのですが、夏になると塩分不足で突然足がつるし、最初は散々でした。どうしたら喜んでもらえるのかと必死に悩みました。

中学生の時にフィールドワークで、国有林のため一般には入れない嵐山に入れてもらい、鹿の被害や国の対策の話を聞いたのを思い出しました。その事を話したり、嵐山の景観を保つために、桜の植樹の募金活動もしていた話は、観光客の方からは大変喜んで頂けました。そして今若者に受けているカフェは、200年以上前に建てられた建物の中だけを改装したもので、映える写真が撮れるんです。このように、若者ならではのリアル情報も入れることで、徐々にお客様から「あなた的人力車に乗って良かった！」と喜んで頂けるようになりました。

「どうしたら、人の役に立つことができるのか？」

京セラの創業者の稲盛和夫さんの本の中に「利他の心」と書かれていたのが、ずっと私のモチベーションになっています。自分のために働くのではなく、世のため人のために働くことで巡り巡って自分のもとに帰ってくると説かれたものです。高校時代に野球部の副キャプテンをしていた時、監督の言葉を部員に伝えてもなかなか思うように動いてくれず、どうしてこんなにしんどいことをしているのかとと思っていた時にハマった言葉です。その時から、人が喜ぶ姿、楽しんでいる姿を見ることが、いつも私を動かす原動力になっています。

今、世界は平和といえる状況では決してありません。将来私はそんな世の中を変えてみせます。簡単なことではありませんが、この根本は「利他の心」にあると思います。この考えを忘れず、次世代を引っ張っていける人になることを、「二十歳の誓い」とさせて頂きます。

本日は私達のために、このような盛大な記念式典を開催していただき、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

令和6年1月8日 新成人代表 川合啓太